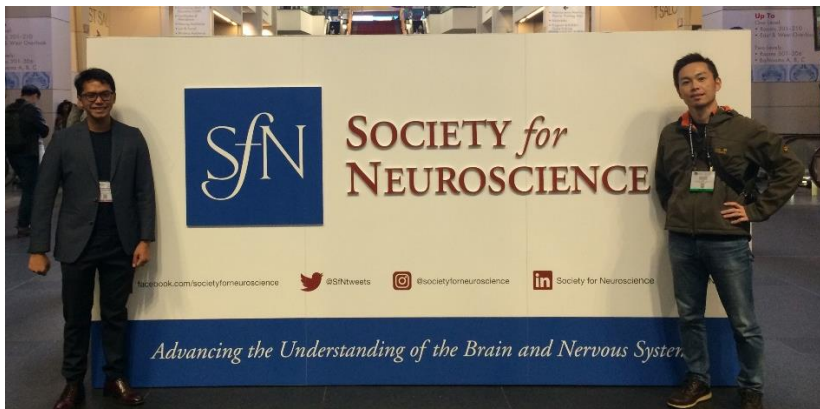


第47回北米神経科学大会（Neuroscience 2017）に参加して

村上丈伸

11月11～15日に米国ワシントンDCで開催されたNeuroscience 2017に参加しました。当科からは阿部十先生、ウィヌ先生、大阪の森ノ宮病院から毎月実験に来られている山下先生と僕の4名でした。一昨年、昨年はひとりで参加しましたが、今回は愉快的な仲間達と一緒に、福島医大神経内科研究ラボとしての参加です。3人の先生方は先にDCに入られ、僕は遅れて13日の夕方に到着しました。阿部先生とウィヌの発表はそれぞれ11、12日でしたので、残念ながら見ることはできませんでしたが、百戦錬磨の阿部先生はもちろんのこと、ウィヌも持ち前の度胸と巧みな英語力でロズウェル教授をはじめとした世界的な科学者を前に堂々と発表されたと伺いました。おふたりともお疲れ様でした。



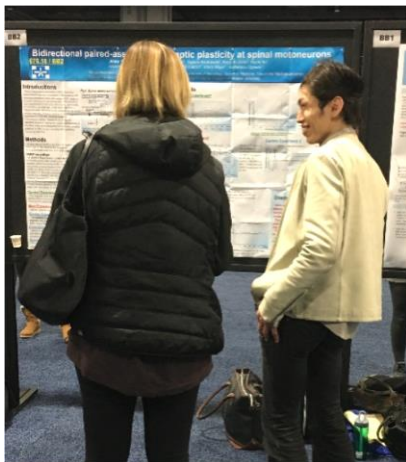
13日の夕方に到着した僕は、システム神経科学の永福教授が翌日にお帰りになられるということなので、一緒に食事をしました。永福先生とは昨年サンディエゴで開催された際、壁ができる前に行ってみようと、国境を越えてメキシコのティファナまで足を伸ばした仲です。DCの繁華街には何があるかご存知ですか？そう、チャイナタウンです。横浜中華街を彷彿とさせる大きな中華門をくぐり、我々が向かったのも中華料理店。米国まで来てなぜかチンタオビールで乾杯して中華料理を食べました。店員が我々を日本人だと認識したのでしょうか、勧めてきた料理はお馴染みの麻婆豆腐と酢豚でした。ちなみに機内食でも中華風の食事が出ました（ユナイテッド航空）。米国首都の中心に中華街。中国人のたくましさを実感すると同時に、トランプ大統領が中国の台頭を牽制するのもある意味わかるような気がしました。

14日は僕の発表でした。これまでNeuroscienceで3回発表し、いずれもポスター発表でしたが、今回は光栄にも？シンポジウムでの口演でした。時差ボケと昨夜のビールが発表練習の時間を奪い、不完全なままでの発表です。シンポジストはほとんどがネイティブの研究者がずっと米国で研究を続けているいかにも偉そうな人たちでした。僕が最後の発表だった上に、時間がすでにおおして、座長もそれを気にしていたので、質問の時間なくさっさと終わるだろうとたかをくくっていたら、ひとつ前に発表した英国人が「次の演者のために時間を残す」と言って早く切り上げたのです。英国紳士のご配慮なのか、余裕のない僕としては大迷惑です。顔を引きつらせて壇上に上がり、今度は腹をくくって研究成果がとてつもなく重大な発見であるかのように、早口にならないように気をつけながら話しました。Q/Aコーナーになり、まず座長から質問。「さっきまで時間を気にしていたんじゃないの、アンタ」と心の中で叫びつつ、質問を聞いていましたが、端的に質問してくれればいいのに、ネイティブがペラペラペラっと回りくどく喋ったので、全部は分かりません。たぶん副作用ことを聞いているんだろうなと思って、返答したところ、一応そうだったようです。ひと安心していると、今度はフロアからの連続攻撃です。一人目は今回の結果の感度、特異度について、もう一人は他の検査結果との関連についてです。幸いこれらは何とな

く質問されるだろうと思っていたことだったので、自分の考えを伝えることができました。セッションが終わってから質問してきた米国人の教授がわざわざ僕のもとに来てくださり、「good job!」と言ってくれて名刺交換できました。会場に駆けつけてくれた阿部先生、ウィヌ先生、山下先生、どうもありがとうございました。その夜は皆でパブに行き、Indiana Pale Ale (IPA) というビールを飲んで労いました（米国で飲むならコレ。苦くて美味しいです！）。



最終日の 15 日は山下先生が発表しました。彼は月に一回はるばる大阪から福島に来られて実験をしています。U 川教授や村上からの度重なるダメ出しにぐっと耐えて、およそ 2 年以上かかってコツコツ積み上げてきたデータを発表しました。最終日ということもあってか、参加者がちょっと少ないようでしたが、ポスターの前を歩いていた人を積極的に捕獲しては説明をしていました。研究者たちとの議論から得るものがあり、次の研究の方針が見えてきたようです。山下先生は他の研究者に比べて研究する環境が整っておらず、それがハンディキャップになっていますが、それを凌駕するガッツでこれからも頑張ってくれるものと思います。発表が終わってから山下先生と IPA とハンバーガーで慰労会をしました。また夜にはウィヌ先生とも打ち上げとしてシーフードレストランで DC 名物の Crab cake を食べました（ウィヌは紅茶、僕はもちろん IPA）。



この日誌を帰りの飛行機の機内で書いています。ここはロシア上空でしょうか、雪をかぶった真っ白な山々が広がっています。今回の DC では笑いのネタになるような出来事に乏しく、つまらない日誌とな

ってしまいましたが、来年5月の国際臨床神経生理学会がこれまたDCであり、U川教授も参加されますので面白いことが起きるに違いありません。先日、抄録締切が延期されたのは、演題を出せということなのでしょう。若者たちよ、DCへいざ往かん。IPAが僕らを待っている！北のロケットマンに撃ち落とされないことを祈りつつ。。。